教育センター通信

火床（ほど）の火の心を紡ぐ

第１１号（通算第３０号）
平成２８年２月２５日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター　発行

歓迎のアトラクション「金物太鼓演奏」
「ふるさと教育」研究発表会（１月２９日、三条小）

創意工夫を凝らした教育に取り組む「特色ある教育実践校・園」（日本教育公務員弘済会新潟支部、新潟日報社主催）の論文審査会で、三条小が優秀賞に選ばれました。三条小が地域とともに長年取り組んできた『ふるさと教育』が“長期的、先駆的な実践だった”と、高く評価されました。

生徒指導における課題

小中一貫教育推進課指導主事　小田　貴樹

残すところあと１か月で平成 27 年度が終了します。今年度１月末時点で、市内における児童生徒の問題行動は昨年度よりも減少いたしました。小中一貫教育における各校の様々な取組と児童生徒及び保護者に対する丁寧な対応が成果を上げているものと考えます。個々の単発するトラブルや問題行動は見られるものの、学校運営が滞るような問題行動は皆無に等しい状況です。今後も児童生徒の心の安定、行動面の安全確保にご尽力をいただきますようお願いします。

２月５日に行われた全県サポートチーム連絡協議会で、生徒指導の課題である「自殺予防」に関する説明があり、その内容についてお知らせします。

児童生徒の年齢が上がるに従って自殺者が増える傾向にあり、４月の年度初め、ゴールデンウイーク明け等に増加傾向となっています。特に９月１日が大きなピークであり、ＰＴＡ全国大会での地域見守り依頼、ツイッターを活用した「24 時間子どもＳＯＳダイヤル」等で防止に向けた取組を行ったが、残念ながら９月初めとシルバーウイーク明けに 10 人の命が失われたという内容でした。子どもは悩みを同世代に打ち明けたいとする傾向が強いが、同世代同士だけでは解決できないため、身近な大人や教師による理解が何よりも大切であるということでした。

また、学校現場の先生方に伝えたいこととして以下の話がありました。

マスコミは、自殺案件があるとすぐに「いじめ自殺？」と考えますが、統計から見るといじめを原因とする自殺の件数は少ない状況です。学校で子どもたちと接している教師の励ましや温かい声がけ等により救われている子どもたちが多く存在することは事実です。マスコミ等の報道ぶりに萎縮せず、子どもやその後ろにいる家族の変化等に積極的に関わってほしい。心から心配してくれる人がいれば、子どもたちは自ら死を選ぶようなことはできない。共感できた内容でした。

平成２７年度「教職員研修、講座」を振り返って

教育センターが実施している「教職員研修、講座」も今年度で３年目となりました。目的は「三条市の小中一貫教育についての理解を深め、教職員の指導力の向上を図ること」です。皆様のご理解・ご協力のおかげですべて終了しました。研修の様子は「教育センター通信」でいくつか紹介してきましたが、今号では、受講者数・評価など数値的な面から「教職員研修、講座」を振り返ってみました。

Ⅰ　基礎研修

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
小中一貫教育基礎研修会	２	４、８月	１９３	９７

Ⅱ　実践研修

１　小中一貫教育を通して学力を向上させる研修

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
全国学力・学習状況調査を活用した授業改善研修	１	１２月	１５	１００
教科カリキュラムの活用、授業づくり講座・演習	６	６、８月	３４	１００
外国語活動・英語教育研修会	１	４月	２５	１００
英語・外国語活動小中連携研修	１	１１月	６	１００
小学校教員から学ぶ研修講座	１	９月	５	１００
中学校教員から学ぶ研修講座	１	９月	８	１００

２　小中一貫教育を通して人間関係を豊かにする研修

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
生徒指導研修会	１	４月	３１	１００
不登校児童生徒コーディネート力向上研修	２	７、１１月	５６	１００
道徳教育研修	１	６月	３０	９７
ハイパーＱＵ活用研修会　※１回目は講演会	２	８、９月	２３４	９９

３　小中一貫教育の視点を生かした各種教育研修

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
デジタル教科書・電子黒板活用研修会	１	５月	１７	１００
学校ホームページ作成	１	５月	７	１００
電子プロジェクター利用研修会	１	１２月	１０	９０
環境教育研修会	１	６月	８	＊
防災教育研修会	４	６、７、９、１１月	１９７	＊
保護者の不安な気持ちへの対応研修会	１	５月	４２	１００
インクルーシブ教育構築モデルスクール事業報告会	１	７月	３２	１００
特別支援教育講演会（発達応援セミナー）	１	８月	１４４	＊
ＷＩＳＣ―Ⅳ技能研修	１	８月	１５	１００
通常学級における学びのユニバーサルデザイン研修会	１	９月	３９	１００
合理的配慮に基づく授業づくり研修会	１	１１月	２３	１００
子どもの観察力・支援力養成研修会	１	１２月	３６	９７

Ⅲ　充実発展研修

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
マネジメント研修	２	５、９月	６７	９８

※「授業力向上実践研修」「刃物・ものづくり教育推進事業」「科学教育推進事業」は別途報告。

全体（講座数と受講者数は合計、評価は平均）	３６	４～１２月	１，２７４	９９

※　評価…受講者アンケートによる４段階評定（Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ）の「Ａ」と「Ｂ」の合計。（％）

Ａ：役に立った　　Ｂ：どちらかといえば役に立った
Ｃ：どちらかといえば役に立たなかった　Ｄ：役に立たなかった

＊…アンケートを実施せず

点検・評価アンケートを通して触れた先生方の「思い」

教育センター指導主事　小杉　洋一

昨年１０月、小中一貫教育全国サミットｉｎ三条が行われました。本市が取り組んできた小中一貫教育の１つの節目であったと言えます。立ち止まることなく、本市の小中一貫教育を次のステージへと推し進めたいものです。そのカギは先生方一人一人の「思い」にある気がします。

点検・評価アンケートは平成２５年に始め、今回で３回目となりました。今回の取組を通して、先生方の「思い」に触れ、感動することが何度かありました。そのエピソードを紹介します。

１　伝達会議その後で…

１２月、点検・評価アンケート伝達会議を行いました。主な参加者は推進リーダー、コーディネーターです。会議はスムーズに進み、予定より早く終わりました。司会の私は「中学校区内で打合せのある方はお残りいただいて結構です。」と告げました。

Ａ中学校区の先生方が打合せをしていました。しばらくすると、Ｂ中学校区の先生方の席に歩み寄りました。Ｂ中学校区の取組が自校区の参考になると考えたのでしょう。Ａ中学校区の先生方は、「児童会活動と生徒会活動で何か工夫をしていますか。」「学習参観は小中同日開催ですか。」といった質問を次々としていました。それに対して、Ｂ中学校区の先生方は、自校区の実践を踏まえて、誇らしげに回答していました。こうしたやりとりが３０分以上続きました。（右上の写真は第2回マネジメント研修会の様子です）

２　コールセンターへの１本の電話

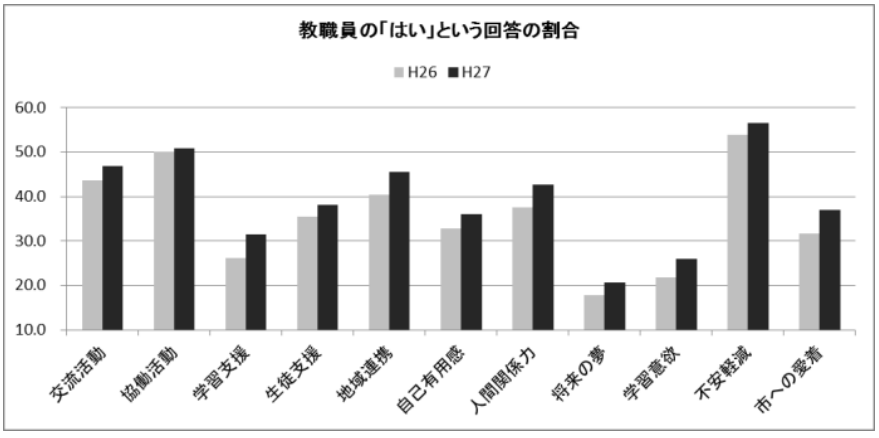
市教職員名簿に載っている方がアンケート対象者ということで、その枚数の用紙が配布されましたが、週１日勤務の非常勤講師で、既に退職した先生を対象者数から除いてもよいでしょうか。

伝達会議後しばらくの期間、教育センター内にコールセンターを設置しています。保護者や先生方の問い合わせを受け付け、共通した返答をするためです。左は、Ｃ中学校区のコーディネーターＤ先生からの電話の内容です。

「もう退職しているのだから、回答してもらえないのは当然ではないか。」とも思いましたが、あえてコールセンターに問い合わせた理由があるかもしれません。電話で話を伺っているうちに、Ｄ先生の真意が見えてきました。私は「もしかしたら、対象者数を減らすことで、回収率が 100%になるようにご配慮されているのですね。」と尋ねました。Ｄ先生は「そのとおりです。」と答えました。

３　先生方の「はい」

市全体のアンケート集計を終え、先生方がどう回答したかという視点で全ての設問を見てみました。右のグラフは「はい」「まあまあ」「あまり」「いいえ」「わからない」の内、「はい」という回答の割合について前回と今回を比較したものです。



全ての設問で昨年度を上回っていました。アンケートの選択肢の中で、最高と最低は選びにくいのが普通です。しかし、最高である「はい」を選ぶ先生が増えてきています。

これらのエピソードに、「やらされるのでなく進んでやろう」「自分で考えて工夫しよう」「自分のやったことに自信をもとう」といった、先生方の「思い」を感じます。こうした先生方がもっともっと増えるよう、教育委員会は努力します。

「ふるさと教育」研究発表会　～できる・分かる・考える喜びのある授業づくり～

１月２９日、三条小学校が地域と共に長年取り組んできた「ふるさと教育」の成果を披露する研究発表会が開催され、市内外の教職員等１２０名が参加しました。その様子をお伝えします。

【ふるさと教育で目指すところ】ふるさと教育：６年間を通じて、積極的・意図的に「ふるさと」にかかわる学びや活動。
「ふるさと教育」は三条小の教育活動の中核として、「ふるさと運動」と「ふるさと学習」を両輪としている。

◆“ふるさと・三条の伝統”を受け継ぐ「ふるさと運動」

「ふるさと運動」は昭和５０年に学校・ＰＴＡの協働で、「ふるさとのいいところを見直そう」「文化を掘り起こそう」との思いからスタートし、現在まで約４０年間受け継がれている。主に以下の二本柱で構成。

①地域行事等への積極的参加
- 三条祭り…太鼓・笛・傘鉾での行列参加　等
- 凧揚げ遠足…凧作り・凧揚げ・大凧体験
- 三条夏祭り…凧ばやしパレードへの参加

②「ふるさと運動クラブ」
- 「凧揚げ太鼓」「金物太鼓」の練習と発表

◆地域に学ぶ「ふるさと学習」

「ふるさと学習」は、「まちなか」の恵まれた立地を活用し、様々な地域人材・学習素材を各教科等に取り入れて実施している。こうした日常的な学習の中で、多くの「人」「もの」「こと」にかかわり、自身の成長を実感する子どもの姿を目指している。

【主な地域素材・人材】
「人」…食の先生・小路の先生・福祉の先生等
「もの」…校舎・金物製品・各種施設・新聞等
「こと」…自然・文化・歴史・産業等
※「もの」：形のあるもの　「こと」：形のないもの

【歓迎のアトラクション】

ふるさと運動クラブ５年生「金物太鼓演奏」

４年生以上が参加するふるさと運動クラブは、休み時間や放課後を使って太鼓の練習を行っている。日曜日には三条小卒業生で構成されている和太鼓集団「三小相称会」から指導を受けている。年度末には６年生から下学年への引き継ぎが行われている。

【公開授業】　※ＧＴ：ゲストティーチャー　※公開授業後の協議会は紙面の都合で割愛。

２年生「生活科」
ＧＴとの交流を通し、地域のおもしろさを見つめ直し、より多くの人に伝えたいという思いを高める。
ＧＴ：地域に詳しい方

４年生「総合」
高齢者との活動について、話し合いとＧＴの助言を通して、今後の交流について見通しをもつ。
ＧＴ：地域の民生委員

６年生「総合」
ＧＴの話を聞き、主体的に行動することの意義を学び、できることをしようという意欲をもつ。
ＧＴ：マルシェ副実行委員

ひまわり「生活単元」
カフェの活動を振り返り、お世話になった「かじまちの家」への礼状の内容を考える。

【講演会】　“学ぶことと社会とのつながりを意識した授業改善への視点”　早稲田大学教授　小林宏己様

小林教授は「ふるさと教育」を高く評価されていました。参観された授業について、子どもたちの学ぶ姿やＧＴの素晴らしさを強調されていました。以下、ＧＴの役割等に述べられた部分を記載。

☆ＧＴは、保護者、地域住民、市民…としての実体験、専門的知識・技術の持ち主である。
ＧＴが入ることにより、子どもたちの“人間味のある学び”と“現実味がます学び”が深まる。

- **直接会い、共に活動する。**共通体験を通じて、ＧＴの人柄にまで触れさせたい。
- **会話を大切にする。**話を聞いて終わりではなく、質疑応答⇒コミュニケーション⇒対話へ。
- **本気になって取り組む。**現実味のある追究が問題を切実にし、豊かな経験が生まれていく。
- **継続的なつながりを築く。**一度の出会いではなく、応答関係を大切にする。
- **交流としての学びの軌跡を成果として示し伝える。**感謝の気持ち・学んだことを精一杯伝える。